

CALIKANJIGRAMAS

Noni Lazaga

24 de Octubre - 15 de Noviembre de 2019

Inauguración: Jueves 24 de octubre a las 19:00h

Instituto Cervantes

Tokio

Tras la presentación de la exposición *Calikanjigramas* en la Galería La Caja Negra en Madrid, en Mayo de 2019, la muestra de 21 dibujos se presenta en el Instituto Cervantes de Tokio. En 2017 Noni Lazaga conoce los haikus del poeta japonés Ozaki Hoosai de la mano de su traductora Teresa Herrero. A partir de ese momento Lazaga idea e inventa una conversación visual con el poeta y rescata sus conocimientos de japonés creando por primera vez lo que llamará calikanjigramas (caligramas de kanji). Estos dibujos a tinta sobre papel *honminoshi*, que se exponen en Tokio son los originales de los aparecidos en la antología del poeta “muevo mi sombra” publicada por Hiperión en 2018.

“No pretendo hacer *sho* ni *haiga*. Son kanjis, en estilo kaisho, que deformato, estiro, encojo libremente y juego a construir nuevos espacios formales. Superponerlos, repetirlos, deconstruirlos para conseguir otros significantes y otros significados. Tampoco pretendo hacer ilustraciones de los poemas, sino que se trata de un diálogo visual con el poeta.”

Cada Haiku es una impresión en la retina, que deja abierta una interpretación a múltiples visiones del instante y que a su vez se puede prolongar en el tiempo. Hay un antes y un después que se expande (Noni Lazaga).

Con esta exposición Lazaga continua en su investigación de la letra y el signo, haciendo un guiño a los caligramas occidentales y a la visión dadaísta del juego y de la escritura oriental con la que ya trabajase en obras anteriores.

Biografía.

Noni Lazaga (Madrid, España). Doctora en Bellas Artes.

Interesada en el dialogo oriente-occidente, ha residido en Japón, Egipto, República Dominicana, y ha investigado entre otros temas sobre la estética de la caligrafía y escritura, estudiando japonés y árabe. En el año 1999 tras su estancia de un año en Japón se interesó también por el papel japonés, washi, Desde el año 2000 trabaja con el espacio, el vacío y la percepción en sus instalaciones. En los últimos años su obra artística ha sido incluida en importantes exposiciones colectivas como *El Principio Asia. China, Japón e India y el Arte Contemporáneo en España (1957-2017)* Fundación Juan March, (2018).

Ha realizado proyectos y exposiciones individuales en instituciones y ferias a nivel nacional e internacional, entre otros *Calikanjigrama*. Galería La Caja Negra 2019; *La casa del Laberinto* CEART, (2015); *Soñar o no Soñar*, Instituto Cervantes de Delhi y *To dream or not to dream*, Indian Art Fair (India, 2015); Protea Gallery (San Diego, USA) 2013. Bial Internacional de Arte Efémero (Granada, 2008). ARCO; *Secretos de un mundo plegable* Galería Amparo Gamir (2007). Museo del Papel (Mino, Japón 1998). Fine Arts Museum (Alejandría, Egipto). Instituto Cervantes (Cairo) y significativos proyectos con AECID, (Agencia Española de Cooperación Internacional) etc... Ha publicado dos libros sobre Japón: *La caligrafía japonesa. Origen evolución y relación con el arte abstracto occidental*. Ed. Hiperión, y *Washi. El papel japonés*. Ed. Clan

カリカンジグラマス

ノニ・ラサガ

俳句は一つひとつが網膜に焼き付くものであり、瞬時にして様々なバージョンでの解釈の可能性を広げ、その瞬間から長い間にわたって心に残るものである。

「前」と「後」というものがあり、拡張されていくのだ (ノニ・ラサガ)。

ある日、テレサ・エレロが、彼女が翻訳した尾崎放哉の俳句を紹介してくれました。尾崎放哉という俳人、そして彼の俳句について、非常に情熱をもって語ってくれたのです。しばらく話をした後「作者本人との自由な会話を通し、俳句を表す絵を描く」という挑戦を引き受けることにしました。初めに紹介された句に続き、次々と他の句を読んでいく中で、私とテレサ、そして原作者尾崎放哉の3人の間での会話が、さらに豊かなものになっていきました。俳句を読んだことをきっかけに、「カリカンジグラマス[1]」という新しい表現を発案し創作しようと閃いたのは、2017年のことでした。「カリカンジグラマス」とは漢字のカリグラム [2] を指し、俳句を視覚的に描くことで、シュールレアリスム的なカリグラムを生み出すというものです。私はこれらの作品を通して、自分の日本語の知識や日本語への親しみを取り戻し、表意文字の変化というものを楽しむようになりました。

何年も前から知っていた漢字もあれば、今になって新たに知る漢字もあります。漢字を見て、その意味まで覚えているものもあります。一方、漢字の方から私を見つめてくることもあります。まるで、私とその漢字を認識し、意味を覚えていないとしても形で選ばれるのをじっと待っているかのように。

私の意図は、書道をするだけでも、俳画を作るだけでもありません。ただ楷書体で書かれた漢字を自由に変形させたり、引き伸ばしたり、縮めたりしながら、遊び心をもって新たな空間を作り出すことです。重ねてみたり、繰り返し書いてみたり、解体したりして、別の「シニフィアン（記号）」と「シニフィエ（意味内容）」を生み出すこと。私の目的はイラストを描くつもりでも、詩を書くつもりでもなく、詩人との間に視覚的な会話を生み出すことです。そして、その会話の賜物がこの「カリカンジグラマス」と題した展示会であり、テレサ・エレロが訳し、出版社のイペリオン社が編集した尾崎放哉の句集「ムエボ・ミ・ソンプラ（影を動かす）」の要素が盛り込まれています。

変形や合成が行われた「漢字」という表意文字には、作品を見る人々が持つ日本語の知識によって、複数の意味が生み出されます。今回の展示会では、こういった意味で多角的な視点が楽しめるような作品を発表しています。

また、前述では「日本語の知識」と述べましたが、もちろん「日本語について知らないこと」という視点も、一つの立派な出発点でしょう。

また、本展示会では、本美濃紙に墨で描かれたオリジナルが展示されています。残念ながら現在はお亡くなりですが、この和紙を作った職人の鈴木さんにオマージュを捧げるためです。この和紙は岐阜県美濃市の葎地区を中心に作られているもので、世界無形文化遺産にも登録されています。鈴木さんは、今皆さんがここで目にしている和紙を作った後、この紙を使用するのに相応しい芸術作品を見つけるまで、18年間大切に保管されていました。

「カリカンジグラマス」は、「再会」と「友情」をテーマとした展示会なのです。

プロフィール

ノニ・サラガ（マドリード、スペイン）

美術の博士号取得。東洋・西洋間の対話に関心を抱き、日本、エジプト、ドミニカ共和国に居住経験を持つ。日本語とアラビア語を学びながら、書道や書体の美学についての研究を行う。1999年、1年の日本滞在を経て和紙に興味をもち、和紙を使用して著作を書いた。2000年以降は、自身のインスタレーションにおける空間、空虚、知覚といった側面に取り組んでいる。

[1] Cali : 「美しい」の意（ギリシャ語由来） Kanji : 漢字 - 中国から伝わり、日本語で使用されている表意文字
Grama : 「書き物」の意（ギリシャ語由来） [2] 一般的には詩の作品として書かれたものを、原文の通りに書き起こすことで、そのテーマを視覚的に暗示するもの。

ここ数年は、芸術作品が重要なグループ展に作品を展示している。代表例はファン・マーチ財団により2018年に行われた、アジア主義。中国・日本・インドとスペインの現代芸術（1957-2017）が挙げられる。また、以下に挙げるものをはじめとし、国内外の機関やフェアにおいても個人のプロジェクトや展示を実施。「Calikanjigrama」 “Galería la Caja negra 2019「La casa del Laberinto」（CEART、2015年）、「Soñar o no Soñar」（インスティトゥト・セルバンテス・デリー）、「To dream or not to dream」（インドアートフェア、2015年）、プロテア・ギャラリー（アメリカ合衆国サンディエゴ、2013年）。エフェメラルアート 国際ビエンナーレ（グラナダ、2008年）。「Secretos de un mundo plegable」（ギャラリー・アンパロ・ガミール、2007年）。美濃和紙の里会館（岐阜県美濃市、1998年）。ファインアーツ・ミュージアム（エジプト、アレクサンドリア）。インスティトゥト・セルバンテス（カイロ）。さらに、AECID（スペイン国際機構）、日本について書いた著作「La caligrafía japonesa. Origen evolución y relación con el arte abstracto occidental.」（イペリオン社出版）、「Washi. El papel japonés.」（Clan社出版）の2作を出版している。

Instituto Cervantes. Tokio

Edificio Instituto Cervantes

2-9 Rokubancho, Chiyoda-ku 102-0085

<https://tokio.cervantes.es/es/>



<http://www.nonilazaga.net> <https://www.calikanjigramas.com/>
<https://www.hiperion.com/tienda/poesia-hiperion/muevo-mi-sombra>